

石川県白山麓におけるタカチホヘビの新産地

戸田 光彦 金沢大学理学部生物学教室

NEW RECORDS OF *ACHALINUS SPINALIS* IN THE HAKUSAN AREA, ISHIKAWA PREFECTURE

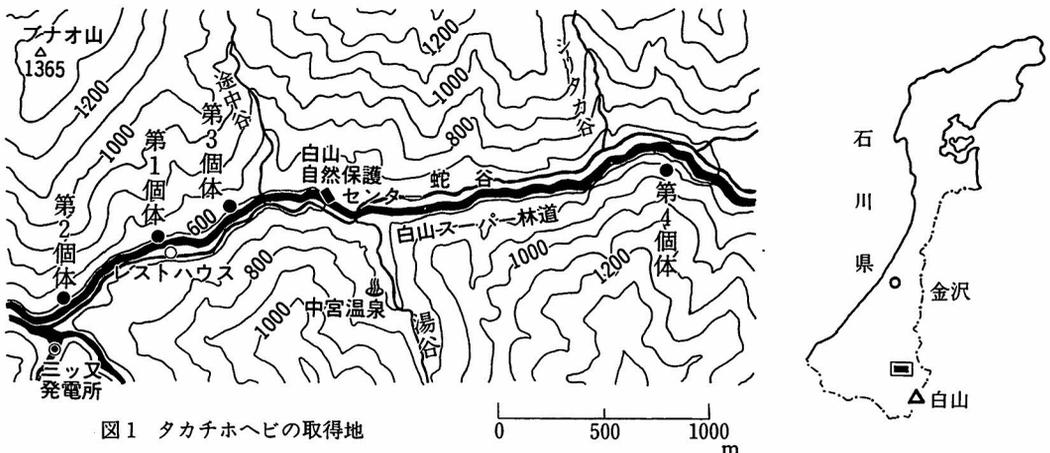
Mitsuhiko TODA, *Department of Biology, Faculty of Science, Kanazawa University*

はじめに

タカチホヘビ *Achalinus spinalis* は、本州、四国、九州、屋久島、種子島及び中国東部に分布する。乾燥に弱く、よく地中に潜り、ミズ等を餌とすることが知られている(千石, 1979)が、生態に関する知見は多くない。国内における分布域は広いが、夜行性であり、小型であるため人目には触れ難く、そのためか未だに分布が報告されていない県も多い。石川県においては、鳥越村渡津と白峰村市ノ瀬での2例が知られるに過ぎない(徳本, 1978)。今回、1985年8月中旬に本種の死体4体が白山麓の白山スーパー林道において集中して取得されたので、以下報告する。なお、本稿作成の上でいろいろお世話になった白山自然保護センターの上馬康生氏、蛇の死体を提供して下さった同センターの八神徳彦氏、そして標本の計測等について御教示下さった日本野生生物研究センターの千石正一氏には厚く感謝の意を表します。

発見の状況

1985年8月12日の10時頃、白山スーパー林道を通行中、白山自然保護センターより約1000m西方の道端で小さな蛇の死体を発見した。背面正中線上の黒条と頭部鱗板の形態より、これはタカチホヘビと同定された。この死体は半ばミイラ状になっており、第40腹板より後部が欠損していた。しかし腐敗はしておらず、背面は茶褐色、腹面は黄褐色を呈していた。標本不完全のため全長は不明だが、後に取得された第3、第4の個体よりもひとまわり大きいものと思われる。



そして、2日後、8月14日の6時頃、林道上の、第1の個体を得た所より約600m西方の地点で黒っぽい蛇の轢死体を発見した。尾下板が対をなさないことから、これも本種と同定した。この死体は新鮮であり、恐らく前夜に死亡したものと思われる。他の個体よりもかなり小さく、背面が黒褐色、腹面は灰褐色であり、黄色味はなかった。

同年8月18日の23時頃、第1個体を得た所より約500m東方の地点でミイラ状になった蛇を発見、これも本種であった。前回、同地点を捜した時には見つからなかったことから、この個体は1、2日前に路上で死亡したらしい。第80~91腹板の周辺が蟻に噛られていた他には欠損はなかった。胴は他の個体よりも太く、土が詰まっていた。これは、ミミズを捕食したことによると考えられる。体色は第1個体とほぼ同様。

さらに、同年8月20日の16時頃、第1個体を得た所より約3200m東方の地点で、タカチホヘビの路上死体が取得された。頸部は虫に食われ、骨が露出していた。また、第98~132腹板も虫食いになっていた。計測の結果、第3個体と全長が同じであったが胴はかなり細く、尾は短かった。背面は、第3個体よりも黒色味が強かった。

ミイラ状の標本の計測は、水に浸け、軟化した後に行った。各標本の計測結果は表1の通りである。

表1 タカチホヘビの計測値

計測値 個体 番号	全長 (mm)	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	体 鱗 列 数 (列)					腹 板 (枚)	尾下板 (枚)
				頸 部	胴前部	頭胴中央	胴後部	肛門前		
1	*	*	*	23	23	*	*	*	*	*
2	185	154	31	25	23	23	23	23	152	47
3	313	245	68	25	23	23	23	21	147	55
4	313	265	48	*	23	23	23	23	156	44

*計測不能

今回の4個体が発見された白山スーパー林道は、幅約6.5mの舗装道路である。発見地点はいずれも石川県吉野谷村中宮であり、標高はおおよそ570~690mである。付近の現存植生は主に落葉広葉樹林（ブナもしくはミズナラ、コナラを優占種とする）となっている。4体は、いずれも道路の山側の端で発見された。夜間活動していて法面から林道に落下し、戻れずに死亡したものと思われる。第1、3、4個体は全く潰れていないことから、轢死ではなく乾燥死であることがうかがえる。

蛇の路上死体短期集中例については、宮崎(1982)による石川県金沢市のシロマダラ(2頭、1978年9月6日、16日)や、千石(1984)による千葉県松戸市のヒバカリ(3頭、1984年7月22日、31日、8月4日)などの報告がある。いずれも何らかの生態的必然の結果と思われるが、その詳細は不明である。今回タカチホヘビが見つかった路上においては、ミミズの乾燥した死体が数多く見られた。本種はミミズの棲む様な所に生息し、これを餌とするため、ミミズの死体と本種の路上死には何らかの相関関係があると思われる。

従来、石川県におけるタカチホヘビの記録が少なかったことの一因として、着目する人の少なさが挙げられよう。こういう地味な生物に着目する人の増加により、分布の空白地帯は埋まり、いずれはその生活史も明らかになろう。

文 献

宮崎光二(1982)日本の重要な両生類・は虫類、北陸版。環境庁。

戸田：石川県白山麓におけるタカチホヘビの新産地

千石正一 (1979) 原色／両生・爬虫類。家の光協会。

———— (1984) ヒバカリD. O. R. の短期集中例。爬虫両生類雑記, VOL 11, p. 36, 爬虫両生類情報交換会。

徳本 洋 (1978) 石川県の自然環境, 第4分冊。石川県。